

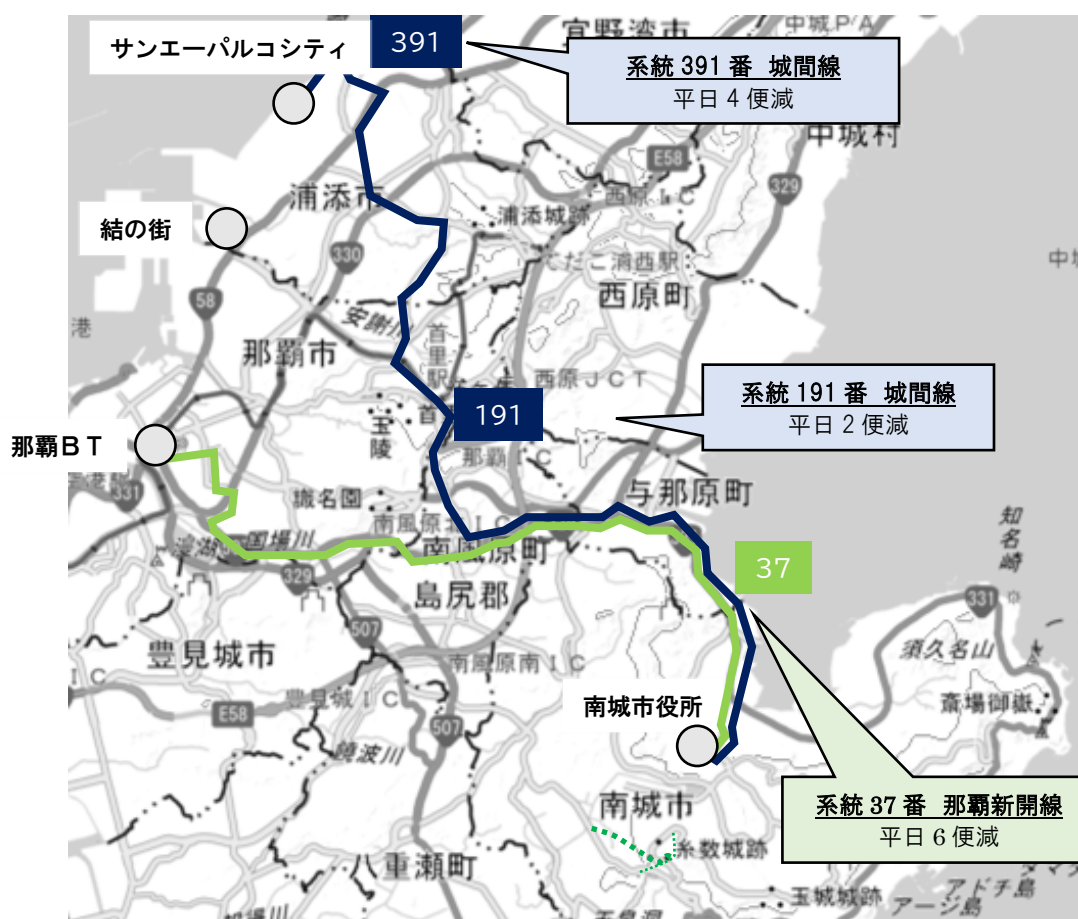
路線バス（東陽バス）の減便と再編計画の見直し

令和 6 年 8 月 30 日

南城市地域公共交通会議

1 路線バスの減便の概要

- 運転手不足、交通渋滞による路線バスの所要時間の増加等により、令和6年9月17日（火）より路線バスのダイヤの見直しを行います。
- 東陽バスの系統37番、系統191番、系統391番は減便、系統38番、系統338番はダイヤの見直しが行われます。



系統名	現行			変更			増減		
	平日	土曜日	日祝日	平日	土曜日	日祝日	平日	土曜日	日祝日
37 番	31	28	28	25	28	28	▲6	±0	±0
191 番	16	4	4	14	4	4	▲2	±0	±0
391 番	16	12	12	12	12	12	▲4	±0	±0

2 南城市地域公共交通再編実施計画の見直し

2.1 幹線バスの見直し

- 国道 331 号（佐敷・知念方面）では、2019 年度の再編で系統 37 番、39 番及び 41 番を市役所発着とし、バス路線の中核地への集約を進めます。なお、系統 39 番とほぼ同じルートを通行し、浦添市の結の街から発着する系統 339 番を新設します。
- 観光客の利便性を高めるため、斎場御嶽を発着する系統 338 番を新設します。系統 338 番の新設にあわせ系統 38 番は減便します。
- 令和 6 年 4 月に系統 39 番、339 番、9 月に系統 37 番、191 番、391 番は減便します。

表-1.国道 331 号（佐敷・知念方面）の見直しの概要(1/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
37 番	那覇新開線	32 便	東陽バス	新里～馬天営業所行、新里～市役所行に分岐し、ほとんどの便が南城市役所発着。	南城市役所発着	2023 年 2 月、9 月、 2024 年 9 月に減便。
38 番	志喜屋線	32 便	東陽バス	朝夕のみ運行し、斎場御嶽発着の系統 338 番を新設。	同左	2023 年 2 月、9 月に減便。
338 番	斎場御嶽線	—	東陽バス	斎場御嶽発着で、斎場御嶽線を新設。	同左	2023 年 2 月、9 月に減便。
39 番	百名線 ※再編後は南城線	46 便	沖縄バス	南城市役所発着に変更。	市内は同左 2022 年度に一部便が豊見城営業所まで運行区間を延長	2020 年度より増便、 2024 年 4 月に減便。
339 番	南城～結の街線	—	沖縄バス	南城市役所発着で、結の街線を新設。	市内は同左 2022 年度に壺川経由に運行。	2020 年度より増便、 2024 年 4 月に減便。

表-2.国道 331 号(佐敷・知念方面)の見直しの概要(2/2)

系統 番号	系統名	平日 便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の 再編	備考
41 番	つきしろの 街線 ※再編後はつ きしろの街(百 名経由)線	10 便	沖縄 バス	南城市役所発着 ～西つきしろ間～ 百名～市役所に運 行区間を延長。	2022 年度に廃 止、39 番に統合	
191 番	城間線	32 便	東陽 バス	変更なし。	新里～馬天営業 所間から新里～ 南城市役所に経 路を変更。	事業者にて、南城市役 所までの乗り入れ可能 性を検討。 2022.11 の系 統 391 番の新設に伴い 減便。 2024 年 9 月に 減便 ※系統 91 番は 2018 (平 成 30) 年 12 月 22 日に廃 止し、系統 191 番へ統合
391 番	城間線	—	東陽 バス	—	2022.11 新設	2024 年 9 月に減便



2.2 収支の見直し

(1) 事業費

幹線バスの事業費は、2024年9月再編により、事業費は2024年4月（沖縄バス再編）の7,900万円から7,790万円へと110万円減少します。Nバス、おでかけなんじいの事業費に変化はありませんので、全体の事業費は、2024年4月（沖縄バス再編）から110万円減の2億660万円となります。

表-3.再編事業の事業費

区分	系統番号	運行主体	運行区間	車両	運転手	事業費(千円)
幹線バス	37 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～新里～馬天営業所・南城市役所	13	23	8,100 /7,000
	38 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～志喜屋			3,500 /3,500
	338 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～斎場御嶽入口			4,800 /4,800
	39 番系統	沖縄バス	那覇 BT～馬天入口～南城市役所	5	9	5,300 /5,300
	339 番系統	沖縄バス	結の街～那覇 BT～南城市役所			3,600 /3,600
	40 番系統	沖縄バス	那覇 BT～大城・南城市役所	4	8	10,400 /10,400
	309 番系統	沖縄バス	結の街～那覇 BT～大城・南城市役所			12,600 /12,600
	51 番系統	琉球バス	那覇 BT～稲嶺十字路～玉城中学校前～百名 BT	13	20	14,500 /14,500
	50 番系統	琉球バス	那覇 BT～向陽高校～中山～百名 BT・南城市役所			11,200 /11,200
	36 番系統	沖縄バス	糸満 BT～仲程～馬天入口～南城市役所			5,000 /5,000
	小計			35	60	79,000 /77,900
デマンド交通	おでかけなんじい	鏡原第一交通	久高島を除く南城市内全域	3	6	32,900 /32,900
計				44	77	207,700 /206,600

※幹線バスの事業費は、走行キロに走行キロ当たりの運行経費を乗じて算出しています。

※上段が2024年4月（沖縄バス再編）、下段が2024年9月再編

※Nバスの事業費は変更がないため、添付を省略

(2) 幹線バスの収入

幹線バスは、市内で短縮する区間の利用者数の減少などを想定して再編後の収入を試算しました。統廃合、増減便等がありますが、既存の利用者がバスのダイヤに合わせて利用すると想定しました。2024年4月（沖縄バス再編）、2024年9月再編ともに、収入見込みはともに1億5,820万円になります。

表-4. 幹線バスの収入の見込み

系統番号	運行主体	再編前 (千円)	①2024年4月 (沖縄バス再編) (千円)	②2024年9月 (千円)	増減 (②-①)	備考
37 番系統	東陽バス	15,800	13,800	13,800	±0	
38 番系統	東陽バス	52,500	22,500	22,500	±0	再編時は 338 番系統と便数で按分
338 番系統	東陽バス	0	26,800	26,800	±0	再編時は 38 番系統と便数で按分
39 番系統	沖縄バス	29,600	30,000	30,000	±0	再編時は 339 番系統と便数で按分
339 番系統	沖縄バス	0	5,000	5,000	±0	再編時は 39 番系統と便数で按分
41 番系統	沖縄バス	4,100	0	0	±0	
40 番系統	沖縄バス	22,500	13,500	13,500	±0	再編時は 309 番系統と便数で按分
109 番系統	沖縄バス	1,500	0	0	±0	40 番系統に統合
309 番系統	沖縄バス	0	9,000	9,000	±0	再編時は 40 番系統と便数で按分
51 番系統	琉球バス	8,100	13,000	13,000	±0	
53 番系統	琉球バス	21,500	0	0	±0	51 番系統に統合
50 番系統	琉球バス	7,200	23,900	23,900	±0	
36 番系統	沖縄バス	1,000	700	700	±0	
琉球バス交通		36,800	36,900	36,900	±0	
沖縄バス		58,700	58,200	58,200	±0	
東陽バス		68,300	63,100	63,100	±0	
計		163,800	158,200	158,200	±0	

※幹線バスの収入は、廃止、運行区間短縮等で支線バスに転換した利用者分の収入を控除して算出。

(3) 幹線バスの収支

幹線バスは、収入が1億5,820万円のままでありますが、支出が2024年4月（沖縄バス再編）の7,900万円から、2024年9月再編で7,790万円に減少することで、収支が7,920万円のプラスから、8,030万円のプラスへと改善されます。

表-5.幹線バスの収支の見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)		
	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9	増減	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9	増減	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9	増減
37番系統	13,800	13,800	0	8,100	7,000	▲ 1,100	5,700	6,800	1,100
38番系統	22,500	22,500	0	3,500	3,500	0	19,000	19,000	0
338番系統	26,800	26,800	0	4,800	4,800	0	22,000	22,000	0
39番系統	30,000	30,000	0	5,300	5,300	0	24,700	24,700	0
339番系統	5,000	5,000	0	3,600	3,600	0	1,400	1,400	0
40番系統	13,500	13,500	0	10,400	10,400	0	3,100	3,100	0
309番系統	9,000	9,000	0	12,600	12,600	0	▲ 3,600	▲ 3,600	0
51番系統	13,000	13,000	0	14,500	14,500	0	▲ 1,500	▲ 1,500	0
50番系統	23,900	23,900	0	11,200	11,200	0	12,700	12,700	0
36番系統	700	700	0	5,000	5,000	0	▲ 4,300	▲ 4,300	0
琉球バス交通	36,900	36,900	0	25,700	25,700	0	11,200	11,200	0
沖縄バス	58,200	58,200	0	36,900	36,900	0	21,300	21,300	0
東陽バス	63,100	63,100	0	16,400	15,300	▲ 1,100	46,700	47,800	1,100
計	158,200	158,200	0	79,000	77,900	▲ 1,100	79,200	80,300	1,100

※収支は、南城市を発着する利用者からの収入-南城市内区間の運行経費を差し引いて算出。収入には市外区間の運賃収入も含まれており、南城市内区間の運営が黒字であることを示すものではない。

(4)収支のまとめ

新たに導入される支線バスについては、収支が2024年9月再編で約5,350万円のマイナスとなりますが、既存の幹線バスの収支は大きく改善、デマンド交通の収支も改善されることから、全体の収支は再編前に比べ約3,800万円、2024年4月（沖縄バス再編）に比べ100万円改善されます。

表-6.再編による収支の見込みのまとめ

	収入				
	再編前	2019再編	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9再編	前回再編からの増減
支線バス	2,300	41,900	42,300	42,300	0
幹線バス	163,800	156,000	158,200	158,200	0
デマンド交通	8,300	5,300	4,600	4,600	0
計	174,400	203,200	205,100	205,100	0
	支出				
	再編前	2019再編	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9再編	前回再編からの増減
支線バス	22,400	94,900	95,800	95,800	0
幹線バス	141,500	98,400	79,000	77,900	▲ 1,100
デマンド交通	49,800	45,100	32,900	32,900	0
計	213,700	238,400	207,700	206,600	▲ 1,100
	収支				
	再編前	2019再編	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9再編	前回再編からの増減
支線バス	▲ 20,100	▲ 53,000	▲ 53,500	▲ 53,500	0
幹線バス	22,300	57,600	79,200	80,300	1,100
デマンド交通	▲ 41,500	▲ 39,800	▲ 28,300	▲ 28,300	0
計	▲ 39,300	▲ 35,200	▲ 2,600	▲ 1,500	1,100
	再編前からの収支の増減				
	再編前	2019再編	2024.4 (沖縄バス再編)	2024.9再編	
支線バス		▲ 32,900	▲ 33,400	▲ 33,400	
幹線バス		35,300	56,900	58,000	
デマンド交通		1,700	13,200	13,200	
計		4,100	36,700	37,800	

2.3 まとめ

- 2024 年 9 月再編により既存の路線バス（再編後の幹線バス）の事業費は、再編前に比べ **6,360 万円削減、収支は 5,800 万円**の大幅な改善が見込まれます。さらに、車両、運転手の削減（効率化）も図られ、持続可能性が高まります。
- 新たに支線バスを運行することで、南城市内を走行する路線バスの年間走行距離は、約 63 万 km から約 100 万 km へと大幅に増加し、利便性が非常に高くなります。
- 一部区間では、幹線バスの廃止、運行区間の短縮などで利便性が低くなる場所もありますが、支線バスでの対応や、支線バスの市内均一運賃の導入で利便性の低下をカバーします。

表-7.再編による南城市内の走行台キロの変化

	再編前	2019再編	2024.9再編	増減
支線バス	0	600,000	659,000	659,000
幹線バス	627,000	399,000	350,000	▲ 277,000
計	627,000	999,000	1,009,000	382,000